

# アーカイブサミット2015 の成果と課題

吉見俊哉

# アーカイブサミット2015とは？

日時 2015年1月26日 10:30～20:30

会場 千代田区立日比谷図書文化館

主催 アーカイブサミット組織委員会

(委員長 長尾真、委員 青柳正規、宮田亮平、  
角川歴彦、高階秀爾、竹宮恵子、石川雅己)

参加者 222名

刊行物 『アーカイブサミット2015 報告書』(赤本)

『アーカイブ立国宣言』ポット出版(緑本)



1. なぜ、アーカイブサミットが開かれたのか？
2. 誰が、アーカイブサミットに参加したのか？
3. 何が、アーカイブサミットで話されたのか？
4. 何を、アーカイブサミットで宣言したのか？
5. 残された課題は何か？

# なぜ、アーカイブサミットが開かれたのか？

## 知識基盤社会からほど遠い日本の現状

- ガラパゴス問題：ヨーロッパナ、DPLAに大きく立ち遅れ、中国の急進
- バラバラ問題：図書館、博物館・美術館、文書館、大学から資料館までが分散
- 宝の持ち腐れ問題：どこに何があるか？ 誰がどうデジタル化できるか？
- 食べていけない問題：アーカイブ専門職の人件費、人文系学部の未来

日本発の価値創出

国立デジタルアーカイブセンター

- 著作権とパブリックドメインのバランス
- クリエイティブなアーキビストの持続的養成
- アーカイブの標準化・横断化・公開化

アーカイブ基本法

国立デジタルアーカイブセンター

グローバルなクリエイティブ経済をリード

# 誰が、アーカイブサミットに参加したのか？

- 河村建夫(衆議院議員) 小坂憲次(参議院議員) 馳浩(衆議院議員 現文科大臣)
- 長尾真(京都府特別参与) 青柳正規(文化庁長官) 石川雅己(千代田区長)
- 瀬尾太一(日本写真著作権協会専務理事) 小川千代子(国際資料研究所代表)
- アンドリュー・ゴードン(ハーバード大教授)
- 森まゆみ(作家) 御厨貴(青山学院大特別招聘教授)
- 小出いずみ(渋沢栄一記念国際実業史研究情報センター長)
- 福井健策(弁護士) 桶田大介(弁護士)
- 中村伊知朗(内閣知財戦略本部アーカイブスコース議長)
- 木戸英行(DNP文化振興財団CCGAセンター長) 目黒公郎(東京大教授)
- とちぎあきら(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)
- 池村浩(著作権課調査官) 高野明彦(国立情報学研究所教授)
- 柳与志夫(前国立国会図書館司書監) 原由美子(NHK放送文化研究所研究主幹)
- 石橋映里(日本脚本アーカイブス事務主任) 若木秀彦(東京都美術館学芸課長)
- 太下義之(三菱UFJ 芸術文化政策センター長) 吉見俊哉(東京大教授)

政界

文化庁

図書館

文書館

地域活動

大学

海外機関

博物館

メディア

産業界

# 何が、アーカイブサミットで話されたのか？

東日本大震災とポスト東京五輪2020をつなぐ射程のなかで構想する

防災をコストから**バリュー**に変える(目黒)

記憶を「**見える**」状態にする(御厨)

プライベートを超える**コモンズ**をつくる(生貝)

全国の行政の公開情報をデジタルで**統合化**する(古賀)

国立デジタルアーカイブセンター

## 現場の知

## 政策の知

アーカイブ基本法

『谷中・根津・千駄木』(森)

- 地域の記憶と記録に変える
- 記録をアーカイブ化する
- 地域の記録人を育てる
- 地域アーカイブを**結ぶ**

情報/知は誰のものか(吉見)

- デジタルはすべてを記憶する(忘れない社会)
- 情報は使っても減らない(価値は増える)
- 諸アーカイブをつなぐ**横串**(金、人、法、技術)

震災アーカイブ(ゴードン)

- 保存
- **ネットワーク**
- 発見
- **参加**

**国立デジタルアーカイブセンター**の設立(福井)

- 国の横断的なデジタルアーカイブ振興基本計画
- 諸アーカイブを**横串にネットワーク化**する仕組み
- オープンデータ化
- 多言語発信

# 何を、アーカイブサミットで宣言したのか？

## アーカイブ立国宣言

- 国立デジタルアーカイブセンターの設立
- デジタルアーカイブを支える人材の育成
- 文化資源デジタルアーカイブのオープンデータ化
- 抜本的な孤児作品対策

価値の創造(儲かる)

## 人の問題

- ① 学位・資格への共通カリキュラム
- ② 新たな専門職の理念・マインド
- ③ 職制の再定義
- ④ プロジェクトの経験
- ⑤ 養成機関とキャリアパス

## 法の問題：孤児作品対策

- ① 不明の程度、分量、利用主体、態様に応じて複数制度を組み合わせる
- ② 保存目的のデジタル化につき31条2項の主体の範囲を一定程度拡大

## お金の問題

- ① 公的資金の「使い方」の改善  
事業分野で分散する公的資金の統合的活用、特に人件費の柔軟な供出
- ② 商業的利用の開拓  
アーカイブの量と多様性が価値を生む
- ③ アーカイブのコスト低減  
権利処理の効率化
- ④ 「なぜアーカイブなのか」の明確化  
知識インフラの重要性の理解拡大

# 残された課題は何か？

## 疑問点

- ① 文書館への視点が欠落していないか？
- ② 内容が文化芸術分野に偏っていないか？
- ③ オープンデータ化がビジネスに益する仕組みをどう作るのか？
- ④ 全体的な方針を出す以前に個別アーカイブが脆弱だ？
- ⑤ 国家主導の政策は地方のアーカイブを疎外しないか？
- ⑥ 閲覧者ではなく作り手としての市民、草の根への視点が欠落していないか？
- ⑦ 国内アーカイブ機関の横の連携、連動のデザインをどう考えるか？



## 解決の方向

- ① この場にはいない担い手・地域との連帯
- ② 職場・業界のリテラシー、一般のリテラシーの向上
- ③ より大胆な提言の可能性
- ④ ベストプラクティスの共有化
- ⑤ ベストカリキュラムの検討
- ⑥ 方法としてのデジタル化の推進
- ⑦ 文化資源の保存・活用の価値の明確化